

ダービーシャー・豊田市姉妹提携 25 周年式典
における林肇駐英国日本国大使挨拶（仮訳）

バリー・ルイス・ダービーシャー州知事、
バギー・シャンカー・ダービー市長、
ロバート・ピアソン・南ダービーシャー市長、
太田稔彦・豊田市長、
御列席の皆様

本日、豊田市とダービーシャーの姉妹提携 25 周年をここにお集まりの皆さんと一緒に祝えることを大変うれしく思います。

豊田市に本社を置くトヨタ自動車株式会社が、南ダービーシャーバーナストン地区に製造子会社を設立したのは 1989 年のことでした。同社の地域社会との積極的な関わりにより、豊田市とダービーシャーの交流が始まり、1998 年に正式に提携が締結されました。以来、文化活動や学生交換などを通じ、両地域の絆が着実に深まっていることを大変嬉しく思います。

しかしながら、駐英国日本国大使として、日本とダービーシャーの歴史的関係は、当時総理大臣とほぼ同様の重要な地位を占めていた岩倉具視が率いる使節団が、チャッツワース・ハウスを訪問したときから 150 年以上も遡ることも述べなければなりません。昨年、妻と私は、岩倉使節団訪問 150 周年を記念したカントリーフェアに参加する機会に恵まれました。そして、私たちは、素晴らしいロケーションと豊かな遺産を備えたこの象徴的な邸宅、そこに住む人々の温かいおもてなしに深く感銘を受けました。私たちは、トヨタが英国の本拠地としてダービーシャーを選んだことは、大変素晴らしい選択だったと確信しています。

ダービーシャーで 30 年以上活動してきた同社は、今や確実に地域コミュニティの一員となっています。同社は年間 100,000 台以上の車両を生産し、2,000 人の熟練した人材を雇用しています。これは、日本企業が英国においていかに良き企業市民として行動し、サプライチェーンを構築するとともに、雇用を提供し、地域社会に貢献してきたかを示す輝かしい例です。

今年5月のG7広島サミットの機会に岸田文雄首相とリシ・スナク首相によって署名された広島アコードに示されるように、今日、日本と英国はますます世界的な戦略的パートナーとして重要性を増しています。広島アコードは、両国間のこれまで以上に緊密な経済連携を通じて投資を増加させることを構想しています。

大きく変化しつつある自動車業界を取り巻く複雑な環境の下でも、今後もこの互恵関係は発展していくものと確信しています。この記念すべき25周年を祝うにあたり、長い距離のかけ橋となり、ダービーシャーと豊田市を結び付けてきた友好的な絆を今後も育み、強固にしていくことを切に願っています。

最後に、長年にわたり豊田市とダービーシャーの間の人的・文化的交流を深めてこられた皆様のご尽力に敬意を表すとともに、本日の素晴らしい式典を企画してくださった皆様に感謝したいと思います。

本当にありがとうございました。